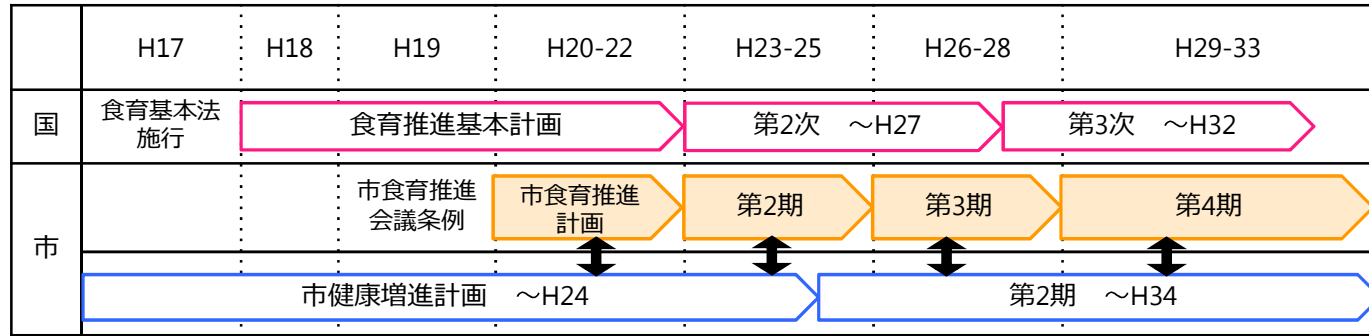


## 1 川崎市食育推進計画策定の経緯・位置づけ

- 川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョンを上位概念として、関係計画と連携しながら推進している。
- 川崎市食育推進計画は、食育基本法に基づき、策定している。
- 「川崎市食育推進会議」を設置し、市長を会長として、学識経験者、食育関連団体の代表、公募市民等19名により計画の策定、計画の進捗状況の把握を行っている。
- 食生活の改善は、生活習慣病予防のために極めて重要であることから、川崎市健康増進計画「かわさき健康づくり21」と特に連携を図りながら推進している。
- 国の第3次食育推進基本計画では、若年層への食育の推進等を重点課題としてあげる動きが見られた。



## 2 第3期川崎市食育推進計画の取組と結果

【目標】	【取組の方向性と主な取組】	【結果】
楽しい食事で心をはぐくむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●食を通じたコミュニケーションの推進</li> <li>●食を大切にできる心の育成</li> <li>●食文化や日本型食生活への理解の促進</li> </ul> 例) 料理教室、農業体験の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>毎日家族と一緒に食事をする人の割合の増加</b> H24 48.2% → H27 50.7% &lt;目標値55.0%&gt;</li> <li>●友人、知人、同僚と週1回以上食事をする人の割合の増加 H24 44.0% → H27 29.3%</li> </ul>
元気な体をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●健康的な食の在り方を学ぶ機会の提供</li> <li>●規則正しい生活習慣の定着に向けた取組</li> <li>●食の安全性に関する正しい知識の習得</li> </ul> 例) 生活習慣病予防の取組、食育の授業の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>主食、主菜、副菜がそろった食事を1日2回以上する人の割合の増加</b> H24 56.0% → H27 69.6%</li> <li>●朝食を毎日食べる子どもの割合の増加 H24 小5 95.8%・中2 91.6% → H27 小5 95.5%・中2 90.9%</li> </ul>
食を通して地域のつながりをつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●食に関するボランティア活動等への支援</li> <li>●行政、関係団体等とのネットワークづくり</li> <li>●食に関する情報の提供</li> </ul> 例) ボランティアの養成、食育推進分科会の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>食生活改善推進員養成数の増加</b> H24 3,697人 → H27 3,944人 &lt;目標値3,925人&gt;</li> <li>●食に関する地域での活動に参加する人の割合の増加 H24 38.3% → H27 33.6%</li> </ul>

### 第3期川崎市食育推進計画の取組結果と現状

料理教室等を通して家族や友人等と一緒に食事する大切さを伝える取組を実施したが、目標値の達成はできなかった。ライフスタイル等の食をとりまく環境の変化に対応し、関係団体等と連携しながら家族や友人等と一緒に食事をする大切さの周知を図っていく必要がある。

学校生活や講演会等を通して、朝食の大切さを伝えたが、朝食を毎日食べる子どもの割合はほとんど変化が見られなかった。子どもの朝食摂取は基本的な生活習慣を身に付ける観点から非常に重要であるため、引き続き取組む必要がある。

地域で食に関する活動をする食生活改善推進員の養成数は増加したが、食に関する活動に参加する人は33.6%だった。きっかけがあれば活動をしたいと思っている人が29.2%いることから、地域の中で食育を推進し、活動のきっかけを作る取組が必要である。

家族や友人等と一緒に食事をしている人は、食事のバランスがよい。若い世代は、食育に関心がある人が高いが、朝食を欠食していたり、バランスのよい食事の回数が少なかったりと食生活の課題が多い。1日に食べる野菜料理の量の目安は5皿だが、3皿以下の人が70.9%いる。災害に備えて食品を備蓄している人は62.9%、給食施設は86.5%である。

### 第4期川崎市食育推進計画に向けての課題

若い世代がバランスのよい食事をする必要がある。

家族や友人等と一緒に食事をする必要がある。子どもの頃から朝食を食べる習慣を身に付ける必要がある。

食に関する活動のきっかけを作り、食を通じた地域づくりを推進する必要がある。

災害に備えて、家庭や施設において食品を備蓄する必要がある。

## 3 第4期川崎市食育推進計画

### 【基本理念】

心身の健康の増進と豊かな人間形成のために、市民一人ひとりが食に関する知識と食を選択する力を養い、健全な食生活を実践していけるよう、家庭、学校、地域、企業等さまざまな分野との連携のもと、すべての年代の市民に食育を推進し、全市民が健康である「最幸\*のまちかわさき」の実現を目指します。

\*「最幸」とは、川崎を幸せのあふれる「最も幸福なまち」にしていきたいという思いを込めて使用しています。

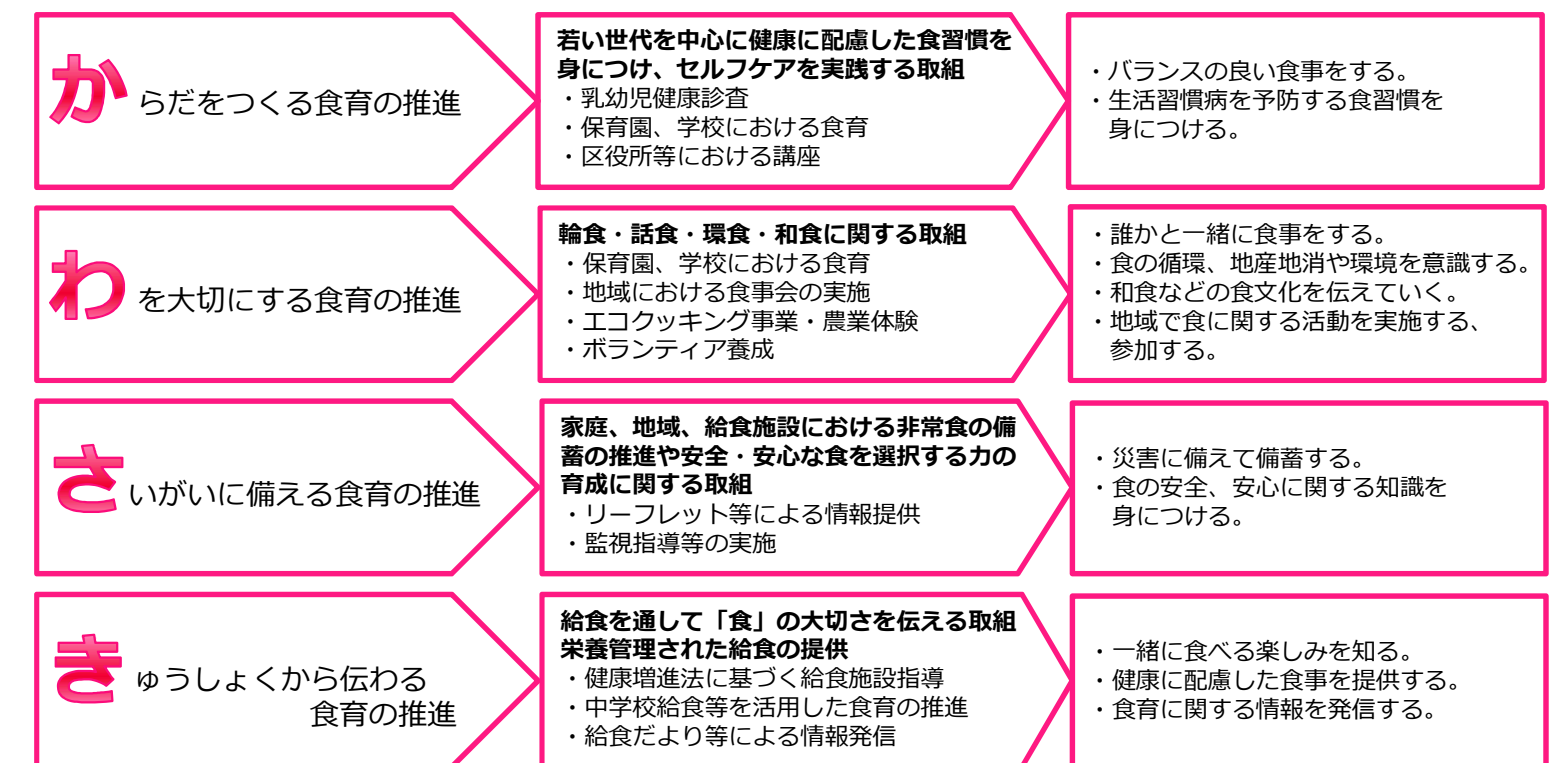
### 【基本方針】

若い世代や高齢世代の取組等のライフステージに応じた食育の推進、地域での取組を通じた食育及び地域包括ケアシステムの推進により、「心身の健康の増進と豊かな人間形成」を目指します。

### 【計画期間】

平成29～33年度 国の食育推進基本計画に合わせ、5年間とする。

### 【取組の方向性】



### 【評価指標】

	指標	現状値	目標値
か	①主食・主菜・副菜を1日2回以上そろえて食べる若い世代（20～30歳代）の割合の増加	57.9%	70%以上
	②野菜摂取が3皿以下の市民の割合の減少	70.9%	減少
	③朝食を毎日食べる子どもの割合の増加	小5 95.5% 中2 90.9%	増加
わ	④毎日1回以上家族や友人・知人等と一緒に食事をする市民の割合の増加	58.5%	増加
	⑤大人と一緒に食事をする3歳児の割合の増加	81.7%	増加
	⑥地域で食に関する活動に参加する市民の割合の増加	33.6%	40%以上
き	⑦食生活改善推進員の養成数の増加	3,944人	4,250人
	⑧食品を備蓄している市民の増加	62.9%	増加
き	⑨食品を備蓄している給食施設の増加	86.5%	増加
	⑩利用者の体格の変化を把握している給食施設の増加	81.9%	増加
	⑪適切な栄養管理（給与栄養目標量の設定）を行っている給食施設の増加	90.2%	増加